

城山産業 電磁鉄心工場を改築 作業環境改善・高精度化

【岐阜】城山産業（岐阜県大垣市、竹中幸三社長、0584・89・1010）は6億円を投じ、モーターやトランスの電磁鉄心（コア）を生産する本社工場（同）の1棟を2016年6月完成に向けて改築する。生産能力は大きくは増えないが、作業環境を改善するほか、プレス機械5基中の2基を更新して製品を高精度化する。得意先工場の海外移転が進む中、競争力を高め、国内での生き残りを図る。改築するのは本社に4棟ある工場棟のうちの1棟。稼働を維持しつつ半分ずつ建て直す計画で、すでに半分を解体しており15年秋をめぐりに完成予定。残り半分を16年6月までに完成する。平屋で約2800平方メートルあった旧工場棟を同約2900平方メートルに拡張する。基礎工事もやり直し、設置するプレス機械の精度の信頼性も高める。

同社のコアは電磁鋼帯を打ち抜いて積層する工法で、改築に伴い老朽化した加圧能力200トンのプレス機械2基を廃棄。新たに同220トと同400トのタイプを追加する。設備の投資額は4億

円。同社はコア専業では国内トップクラスで、15年5月期は65億円の売上高を見込む。得意先の海外展開が進む中、国内に留まり積極投資で同業他社と差別化する方針。14年1月には自社向けのプレス金型の新工場も稼働した。16年6月は創業70周年の節目で、15年ぶりの新プレス工場稼働で積極姿勢を内外に示す。